

2016年度 創価大学教育ビジョン

**創立50周年への本格的船出を!**  
**—創造的世界市民育成のシステムを構築—**

2016年4月  
学長 馬場 善久

## 創立50周年への本格的船出を！ —創造的世界市民育成のシステムを構築—

学長として、最初の任期3年を終え、再任をいただきました。新たな任期のスタートに当たり、創立50年（2020年）を迎えるための向こう3年、そして本年度を展望します。

2010年のグランドデザイン構想の発表後、本学が各項目で掲げた取り組みを着実に進める中、文部科学省のグローバル人材育成推進事業（2012年）、スーパーグローバル大学創成支援（2014年）など、グローバル化を推進するための国の補助金事業に採択されました。これは、我が国の高等教育における重点政策に対応し、グランドデザインで策定した国際化戦略（数値目標）の達成時期を早め、さらに拡大するという努力によるものでした。

昨年度、グランドデザインの前半（2009年～2014年）を総括し、本学をとりまく環境の変化も見据えながら、創立50周年を目指した計画をさらに強化する中期的な戦略を検討しました。そして、昨年11月18日に、2010年発表の「創価大学グランドデザイン」を発展させた「創価大学グランドデザイン2015-20」として新たな中期計画を発表しました。このグランドデザインの趣旨を一言で表現するならば、「創造的世界市民育成」のためのシステム構築へ向けたロードマップといえます。限りある資源を選択と集中によって、効果的に活用し、目標達成を目指す行程表でもあります。

この新たなグランドデザインを検討する際に、強く意識した課題としては、入試選抜制度を含む高大接続の問題がありました。中央教育審議会の答申（2014年12月）にある高等学校教育と大学教育、さらにそれを接続する大学入試を一体的に改革することによって、日本の教育を大きく転換しようという試みです。特に高校と大学をつなぐ大学入試制度のあり方が重要視されています。本学としても、この問題を意識し、準備に当たることを、グランドデザインでも明確に謳いました。具体的には、いわゆるディプロマ、アドミッション、カリキュラムの3つのポリシーの見直しです。

ディプロマ・ポリシーに関しては、全学としては創価大学独自の人材像を明らかにすること、各学部のポリシーでは各学問領域のスタンダードともいべき到達目標をしっかりと踏まえて、創価大学の独自性を表現することを目指します。

アドミッション・ポリシーでは、本学の到達目標を実現していくための入試段階での知識ならびに汎用的能力を明示します。特に現在、入試検討委員会で進めている思考力や主体性をどう測るべきかという観点を反映させていきます。

カリキュラム・ポリシーでは、ディプロマ・ポリシーで定めた到達目標を実現していくためのカリキュラム策定の意図が伝わる形で表現していくことを目指します。

創立50年を迎える2020年までには、すべての学部で新カリキュラムの検討が予定されていることから、まずは、3つのポリシーの見直しに着手し、目指すべき目標を明確にして、準備を開始します。

創価大学を構成する教・職・学のそれぞれが、ビジョンを共有し、自身の役割を強く意識することで、人材育成のシステムを構築したい。その意味での協働を創価大学の全構成員に呼びかけ、本年度の教育ビジョンといたします。

## **1. 教育戦略**

### **(1) 教育のグローバル化の一層の促進**

スーパーグローバル大学創成支援事業で掲げた目標の着実な達成で、本学の教育のグローバル化を一層促進する。具体的には、英語による授業提供の増加を基礎として、英語による教育で卒業が可能となるイングリッシュトラックの増加に努める。また英語もしくは日英併記のシラバスを計画的に増加させる。年々増加する外国人留学生に対する教育サービスの拡充を図る（詳細は4-(2)記載）。

### **(2) 「世界市民科目群」新設を柱とした共通科目カリキュラムの検討開始**

コロンビア大学ティーチャーズカレッジでの講演「『地球市民』教育への一考察」で、創立者が提案された地球的課題である平和・環境・開発・人権をテーマとした「地球市民教育」のための科目群、「世界市民科目群」の新設を中心に、共通科目カリキュラムの見直し・検討を開始する。

### **(3) 大学教育再生加速プログラム（AP）事業の成果を各学部カリキュラムに反映**

2019年度実施を目指し、多くの学部でカリキュラムの見直しを進めていくが、その際にAP事業で展開している汎用的スキルの獲得を中心とした学生の成長をアセスメントする科目を、必修化を原則として盛り込むことを目指す。

### **(4) 学習ポートフォリオの利用促進**

学生自身が、科目履修による自らの成長の足跡を振り返るために学習ポートフォリオの利用を促進する。また、教員にあってもポートフォリオの活用によるプロセス評価を試みる。

## **2. 教員の研究・教育活動**

### **(1) 総合的な研究支援サポートの体制の整備・強化に向けて**

教員の研究活動の充実と効率化に向けて、総合的な研究支援サポートの体制の整備・強化を図っていく。その具体的な方策として、本年度は「研究推進センター（仮称）」開設に向けた準備を開始する。

「研究推進センター（仮称）」の主な事業として、

- ①学際領域研究を促進する。
- ②国内・国際共同研究の強化を図る。
- ③女性研究者への支援を増進する。
- ④国際的な研究成果公開・創出へ取り組む。

等々の課題に取り組む。

### **(2) 競争的資金の獲得に向けて**

昨年度も「科学研究費助成事業」の採択教員を対象とした説明会や研究支援セミナーを開催し、競争的資金の獲得に向けた研究支援を行ってきたが、本年度も支援の強化を図っていく。特に、学内研究推進制度を検証し、コンサルティングや調書閲覧制度を整備する。また、具体的な調書の書

き方等に重点を置いた研究支援セミナーを開催する。さらに、遠隔授業の導入や研究費の事務手続きの簡素化によって、研究時間の確保にも取り組んでいく。

### (3) 研究不正行為防止への取り組み

研究活動における不正行為を防止し、公正な研究活動を行うために、「研究活動倫理委員会」を中心に、様々なプログラムを作成・実施していく。特に、研究倫理教育を充実させるべく、教員および大学院生向けの研究倫理教材の開発を推進する。

### (4) 研究業績評価によるインセンティブの付与

「総合的業績評価委員会」を中心に、業績評価にあわせた学内研究費の傾斜配分や間接経費の戦略的配分、さらに「教員の総合的業績評価」についても、慎重に検討を重ねていくこととする。優先的研究環境の整備を図りつつ、各教員の研究意欲が高まるよう、研究活動の可視化や評価に取り組んでいく。

## 3. 学生支援

### (1) 奨学金制度の拡充

本年度は、「創価大学牧口記念教育基金会学部生奨学生」120名（20万円）を230名に大幅に拡充し、さらに2018年度には350名に拡大する予定である。また「創価大学給付奨学生」も、90名から100名に拡充し、2018年度には120名まで増やす計画である。また、本年度の新生から、「兄弟姉妹同時在籍者への給付奨学金制度」を実施し、奨学金の拡充を進める。

本学の給付奨学金制度は、全国でもトップクラスの充実度を誇るが、今後もさらに給付奨学金制度を検討し、学生支援の充実に取り組む。

### (2) 学生寮のさらなる充実

本年度は、2017年3月に完成する国際学生寮としての機能を有する男女それぞれの寮（新滝山寮・新女子寮）を建設するとともに、新たなレジデント・アシスタント（RA）による国際学生寮の運営を取り入れる。

また各寮では、教職員による寮アドバイザー制度を活用し、学習・生活両面のサポートのさらなる充実に取り組む。

### (3) 学内アルバイト支援の充実

本年度は、厳しい経済状況の中、学生が安心して学業に励める環境をつくるため、学内アルバイトの求人情報を自由に閲覧できる「創価大学アルバイト紹介システム（仮称）」を構築し、明年度の本格稼働を目指す。これにより、学生に求人を広く公開し、より個人のニーズにあった選択が可能になる。あわせて学内アルバイトの拡充を目指す。

#### (4) 地方Uターン希望者への進路・就職活動支援

創友会（同窓会組織）と連携し、地方Uターン（Iターンを含む）就職希望学生と懇談会を持ち、地元企業情報を提供するなど就職活動の支援を行なう。また企業就職、公務員・教員採用試験で地方Uターンを希望する学生の経済的支援を推進する。

#### (5) 留学生へのキャリアサポートの強化

スーパーグローバル大学の取り組みの中で、年々外国人留学生が増加しており、今後、日本での就職を希望する留学生も増えてくることが予想される。そこで、本年度は、留学生のためのキャリア科目の開講、インターンシップの対応、企業開拓を進めるための準備・提案を行い、明年度から具体的な留学生のキャリアサポートを強化していきたい。

#### (6) 「課外活動ガイドライン」の浸透

昨年度は、本格的なグローバル人材育成および学生の進路を適正に確保するための「課外活動ガイドライン」を策定、発表した。本年度は、各クラブ・諸団体が進路問題と課外活動のあり方を見直し、同ガイドラインを浸透させ、進路の適正な確保に着実に効果をあげていきたい。

#### (7) 学生生活のさらなる充実

2013年4月より実施した「キャンパス全面禁煙化」も定着しつつある反面、マナーを守らない学生の対応も含め、「キャンパス美化健康推進委員会」を設置し、協議を重ねている。本年度は、全面禁煙化実施より4年目を迎え、今後の方向性も含め、同委員会で協議していく。

### 4. スーパーグローバル大学の取り組み

2014年度に「スーパーグローバル大学創成支援」に採択され、本年度は中間評価の対象となる3年目の成果が問われる。本学が掲げた4つの取り組みについて、本年度の目標を確認しておきたい。これらの目標の達成を通じて「大学改革」と「国際化」を進め、社会の国際化を牽引する「人間教育の世界的拠点」として本学のミッションを果たしていく。

#### (1) グローバル・モビリティ：学生の海外派遣・受け入れの拡大を通じたキャンパスのグローバル化

○受け入れ外国人留学生数 600人（全学生数比7.3%）

○年間海外留学経験者数 868人（日本人学生数比11.1%）

このような国際交流を推進するために、留学生の学費減免や奨学金制度、留学者への支援金給付制度などを本年度から抜本的に改正し、サポート体制を充実する。

#### (2) グローバル・ラーニング：「創造的世界市民」を育成する学部教育プログラムのグローバル化

○外国語による授業科目数 248科目

○外国語のみで卒業できるコース 2コース

○外国語力基準をみたす学生数 700人（全学生数比8.5%）

○シラバスを英語化している科目数 936科目（全科目数比18.2%）

この他に大学院では、一部研究科で9月秋入学制度を開始する。また外国語能力試験受験料のサポートを行う。

**(3) グローバル・アドミニストレーション：大学の運営体制・決定手続のグローバル化**

○混住型学生宿舎（寮）に入居している学生数 外国人留学生110人、日本人学生300人

○教員に占める外国人および外国の大学で学位を取得した専任教員の割合 48.7%

○職員に占める外国人および外国の大学で学位を取得した専任職員の割合 6.7%

**(4) グローバル・コア：人間教育の世界的拠点の形成**

本年度、グローバル・コア・センターを設置し、地球的問題群解決に貢献する高度な専門性を身につけた人材の養成を目指す、大学院「平和・世界市民教育研究科（仮称）」の設置準備に取り組む。

**5. 通信教育部の取り組み**

通信教育部は、本年5月に開設40周年を迎えることとなる。40周年記念事業として、スクーリングを受講する学生の経済的負担の軽減を目的として、毎年100名の通教生に対する給付奨学金制度を新たに設ける。また、「学生サポート」の一環として、2013年度より実施している「レポート作成講義」には、延べ5,000名を越える学生の受講があり、本年度からは新たに「学習計画ガイダンス」を全国各地で開催し、学生が学習を進めやすい環境を一層充実させる。

さらに、本年度の夏期スクーリングにおいて、開設40周年を記念し、通教創友会・光友会・学光世紀会記念大会の意義を含めて、学光祭を盛大に開催したい。

